

中道北小学校移転 白井西自治会説明会 会議録

日	時	平成28年8月19日（金） 午後7時30分～8時35分		
場	所	体験学習館（白井公園）	当日参加者数	13人
教育委員会	長谷川教育長・数野教育部長・嶋田教育総室長・深澤総務課長・村田総務課課長補佐・土橋総務課係長・山本総務課主任			

- 1 開会
- 2 教育長あいさつ
- 3 住民説明会の経過の説明
- 4 候補地とその理由の説明

5 意見交換

住民 この場所（候補地案）で決まると思うが、学校の辺りはフードを架けてほしい。

教委 騒音の関係もあるので、フードについてはJRに要望していきたいと考えている。要望してJRがどこまで応えてくれるのかはわからない。

住民 6月6日に自治会長が集まったとき、教育委員会から候補地案で進めたい話があったが、その話は今回どうなっているのか。

教委 教育委員会としては、示させていただいている候補地案が適しているという考えは変わっていない。しかしながら、皆さんの意見が候補地案で良いのかどうか、大勢の皆さんの意見を聞いた中で、判断していきたいと考えている。

教委 住民説明会の回数を重ねるにつれ、教育委員会の候補地案に対する反対の意見が大半を占めた。第1回は100人弱の方が参加していたが、4回目になると50人位に減り、候補地案に反対の人が多かったという状況があった。

中央道南側について検討してくれということを中心に主張され、教育委員会としても最初から中央道の北側、南側、駐在所の近くを検討しているが、総合的に判断すると候補地案が良いのではないか思っていた。

しかし、中央道南側という意見もあったので、こまめに各地区を回り意見を聞こうと考え方を変えた。この学区のほとんどの方の考えが、候補地案では駄目だということであれば、白紙撤回をすることも致し方ないという決意を持って、この説明会を行なっている。何回か説明会を行なってきたが、決して全員が反対ではなく、多様な意見があることがわかってきた。

これから全ての自治会を回る中で、大勢が中央道の南側にしろということであれば、それは住民の強い意思ということであるので検討していかなければならないと思っている。

住民 今回、市の担当者だけ来ているが、J R 東海は参加しないのか。片手落ちになるのではないのか。今回は、移転に関する候補地の説明だけということか。そのほかの学校の建設に対しての意見は必要ないのか。

教委 その部分についても、意見として聞くことは可能であるが、場所が決まったところで、機能などについて、保護者を対象に説明会を開催して聞いていければと思っている。

住民 主役は学童であるので、いかに環境の良いところで勉強できるかであると思う。場所に関しては、推敲を重ねて出した地域であるのでこれでよいだろうと思うが、学校建設に対して、グラウンドや体育館などはJ R 東海が全て建設してくれるのか。

教委 J R 東海は、軌道を通る部分については、買収をしていくが、学校については、今の機能が維持できるよう補償してくれることになる。どのような校舎やグラウンドにするかは、甲府市で決めていくことになり、J R が建設するわけではない。

住民 学校の建設費用は甲府市で出すのか。

教委 今後の協議になるが、基本的には同程度の機能の部分については補償の対象になる。それ以上の機能になると、甲府市でも費用は出していくことになる。

住民 リニアの軌道が通らなければ移転することもなかったのに、甲府市で建設費を出す必要はないのではないのか。移転するのであればより以上の施設をつくってくれるように交渉するべきではないのか。

教委 全国の公共の関係で、道路建設や史跡の保護の買い上げなどについては算定の基準がある。今ある建物を減価償却したものと考えるが、同じ程度の機能を別の場所に建てかえるにはどの位の費用がかかるのかということで補償してくれる。

現在の小学校はエレベーターがないが、障がいを持つ児童が入学することも考えエレベーターを設置してほしいという要望が多ければ検討するが、その部分については、現在の小学校に設置していないので算定基礎に入らない。そういう部分については、市が負担することになる。通学路についても水路に蓋もかかっていないので危険であると感じているが、そこを整備する費用についても市の負担となる。しかし、建てなおすのであればこれを契機に何とかしたいと考えているので、そのような面も踏まえ、保護者の方々にいろいろな要望を聞きながらよりよいものを目指したい。市で単独で出すものであると、補助金などがもらえないとなると、財政面のこともあるが、少しでもよいものをつくりたいと思っている。

住民 財政困難な中、半公共事業のようなものであると、ある程度交渉してなるべく市の予算を使わないようにしてもらわないと、市の予算は税金であるので、J R からお金を引きだせるよう交渉してほしい。

教委 場所が決まったところで、JRとは協議をしていく。当然、市の財政を使いたくないという思いはあるので、しっかりと協議していきたいと思っている。

住民 いずれ交渉をしていくのではなく、今から交渉していかないと手遅れになるような気がする。

教委 補償については、全国的なルールがあり、それに則ったかたちでは始めている。しかし、移転先が決まらなると、地盤が低いので上げるなどの交渉が出来ないので、場所が決まった時点で、なるべく補償で対応してもらおうような交渉をしていく。

住民 現在、候補地は決まっていないので、ここでは困るなど具体的な話を聞きたい。白井のほうから南に行ってしまうと、通学するのに子供が学校に行くだけで疲れてしまい教育どころではないという考えを持っている。そういう意見を聞きたい。学校がどうのという話よりかは、場所がどうだという具体的な話を聞きたい。

住民 候補地案として良いとしても、JRでフードがつかないとなると納得いかない。

教委 様々な意見、要望はメモして伝える。

住民 下曽根の方から考えて、白井との距離はどのくらいになるのか。

教委 学区内の境からの中間点は、中央道のところになる。

住民 白井にとっては理想的ではないか。

教委 そのような意見を聞いていく中で、判断できればと思っている。この候補地案に決まった場合、防音対策などについては最善を尽くして行きたいと思っている。環境は大事であるので積極的に対応していきたいと思っている。

住民 白井河原橋を渡って通っているが、集合場所まではトラックなども多いので、朝は車で送っており、帰りは児童館で待たせている。低学年は送り迎えであるが、3年生くらいから一人で帰ってくるが、疲れて帰ってくる。登校も集合場所から30分位かかり、帰りはもっと重い荷物を持ちながら帰ってくるので、中央道の南側になると厳しいと思う。

通学路も白井河原橋を渡るところが危ないので、通学路点検の際も話をしても、そこを通る人数が少ないので省かれてしまうが、それはどうかと思う。

住民 そこは、大人でも危険だと思っているので何とかしてほしい。

住民 だから、学校に行くまでに疲れてしまい、教育が受けられるのかという話をした。

教委 教育委員会でも一番先に候補地を示すに当たっては、第1回の説明会でこれ以上遠くなっては困るという意見がでたため、学区の真ん中を調べたところ中央道になった。白井地区の場合は、橋を渡ったりするので単純に測る距離よりも、遠いということは認識している。

住民 現在の候補地案にすると、下曽根の方からは、もっと南にすればよかったという意見が出ると思うので、フードなど設備をしっかりと整えてほしい。

教委 中道北小学校は大雨のときの避難場所とは違うが、その他の避難所になっている。避難所はこの地区一帯の避難所となっているので、中央道の南側になった場合に中央道の下を通ることになるので、中央道が崩れると避難所にならないと思っている。南側の地域の人達と一緒に避難所であればどちらかがリスクを負うが、そうではないので、その心配もしているところである。

住民 何回か説明会に行っているが、保護者説明会では、白井地区の方に建ててほしいという要望が多かったが、それは多分、児童館が離れてしまうので白井地区に建ててほしいと、自分達の周りでは言っていたが、児童館が候補地案の近くにあれば、そういう要望もあまりなかったのではないかと思う。

教委 実際に移転場所が決まり、そこが児童館よりもあまりにも離れてしまうと本来の役割が果たせなくなる。役割として多いのは放課後の預かりという部分が一番大きいと思う。

市でも、放課後児童クラブ、放課後子供教室の制度を進めているところである。児童館を移すというよりも、そのような機能を学校の中に設置できるよう協議していきたいと思っている。

住民 新しい小学校になれば、小学校の中に児童館をつくることができるのか。

教委 児童館ではなく、預かることのできる機能の設置である。

住民 中央市のリバーサイドのあたりでは、委託をして、放課後の児童を預かるシステムが出来ており、親の心配がない。

教委 学校の敷地内又は隣接地くらいで、放課後に安全安心に子どもを預かれる場所を検討している。

住民 防犯の面が心配である。中道の場合は、通学路にもろこし畑があり、見えなくなってしまうので心配である。

住民 今後も説明会はあるが、橋を渡って通う児童もいるので、その辺のことも踏まえてほしい。

教委 今日、参加している全員の方が候補地案でよいという集約をしてよろしいか。

住民 候補地案の場所でよいと思っている。

住民 下曽根の方たちも、候補地案で賛成しているのか。

教委 ある地区では、参加者の中でいろいろな意見があるので集約はできないと言っていた。ある地区は、大方の人が南側にしてほしいという意見であった。なるべく多くの方から意見を聞きたいと思っている。アンケートを配って101対100で決まったとしても、この資料をみても質疑をしていないと誤解をすることもあるので、それで決めてしまうと将来禍根を残してしまう。多数決で場所を決めるような問題ではないと思っている。様々な見地から将来的なまちづくりも含めて検討して、それについて賛同してくれるのかどうかということ把握しているところである。

決まったときには、保護者を念頭においているが、学校機能について意見を聞かなければならないと思っている。

最終的に教育委員会として権限を持っているのが場所を決めることであり、場所を決定し、市長に報告する。教育委員会の権限から離れてしまうことが多い。

教委 当然、教育委員会がなしで進むわけではない。協議をしながら一緒に進めていくことになる。まずは、保護者の皆さんからどのような機能が必要なのか聞いていきたいと思っている。

住民 保護者は健康被害というものを心配しているが、建物などについて教育委員会では関係することは出来ないのか。

教委 誤解があったかもしれないが、児童の健康、教育環境そのものに係わることについては、教育委員会に関係することであるので、市長部局の建設部で建設することになるが、密接な協議をしていく。地元の要望などで、学校とは関係ないものをつくってほしいというようなものについては、教育委員会の権限から外れる。

教委 場所が決まったときに、その地域に詳細な調査に入ることになる。

住民 健康の被害はないといっているが、最初からフードを架けると言えばいいのではないか。

教委 それを言えればよいが、教育委員会の権限で言えるものではないが、影響がないように要望はしていきたいと思っている。

住民 建設年度は何年を考えているのか。

教委 教育委員会で想定しているのは、あくまで予定であるが平成33年4月に開校したいと思っている。

住民 工事車両などはどこから入っていくのか。

教委 その辺のことも含めて実際の調査に入ることになる。

教委 白井西の皆さんの意見としては、候補地案でよいということで集約してよいか。(拍手あり)
今後については、各自治会を回り、皆さんの意見を伺う中で、移転先を決定していく判断材料としていきたいと考えている。

6 閉会